



東川高校ではバドミントン部を指導しています

## 今、生き生きと

東川高校教員  
齊藤 和彦(さいとう かずひこ)さん

今年4月、東川高校に赴任。高校にスキー部創設を―と準備を進めています。「小学校からを長期に教える環境がそろえば、オリンピックをを目指す生徒も生まれるかも」と頼もしい言葉が。東川にクロスカントリースキー少年団が誕生して、もうすぐ4シーズン目の冬。年を追うごとに好成績を重ね、一期生は今春、早くも中学生になっていきます。高校にスキー部が誕生すれば、中学卒業後もスキーを続けたい生徒にとって心強い進学選択肢が生まれます。果たしてクロスカントリースキーの強豪校になれるか？ 齊藤先生の双肩に注目。

スキー部への昇格を前提に、来年4月から東川高校にスキー同好会を立ち上げようと準備を始めています。

「旭岳があつて、遠くにスキーの練習に行く必要もなく、泊まらなくても練習出来る。経済的な理由でスキーすることをあきらめかけていた子も、地元の高校にス

キー部があればできるようになると思うんです」。

旧朝日町との町境に近い土別市内で育ち、小学3年生の時からクロスカントリースキーを始めました。しかし同級生は4人しかおらず、少年団活動をできませんでした。中学に進学してもスキー部はなく、小、中学校時代を通して個人的に練習していたそうです。

「自分の家の前の道路がマラソン公認コースで、当時有名だった宗兄弟(※)が目の前を走っていました。選手と一緒に走り、そしてスキーを一生懸命にやった時代かなあ」。

◇ 高校でようやく部活動としてスキーの本格指導を受け、「競技を続けたい」と中京大学へ。だからこそ



40歳以上5+の部で2連覇の優勝(昨年3月、旭川パーサー・ロバット大会)

「地元でスキーをしたい。でもできない」という子どもたちへの思いに応えたい、という気持ちを持ち続けてきたよう。

大学卒業後、国立大雪青年の家(当時)Ⅱ美瑛町Ⅱを経て道立留萌高校定時制で保健体育教科の教員に。教員最初の赴任地で待っていたのは15歳から72歳まで45人の生徒たちでした。

「不登校、いじめ、障がいを持つ生徒たち。成りたての教員が一人で教えるのは無理。2週間で辞めようと思った。でも4年目の最後の年には『もう1年残ってもいいかな』と思えるほどの経験をし

### 齊藤 和彦さん

上川管内土別市出身、44歳。北海道土別高校を経て中京大学卒業(スキー競技部)。北海道東川高校教員。(本文注)

※宗兄弟=宗茂(兄)、猛(弟)の一卵性双生児のマラソン選手。そるって1984年ロサンゼルスオリンピック男子マラソン日本代表。猛氏は現在、兄茂氏を継いで旭化成陸上部監督、ともに63歳=。